

GINGA REPORT 401

No. 112
2024.9

そらんぼ四日市

検索

発行日：令和6年9月1日
編集&発行：四日市市立博物館・プラネタリウム
電話：059-355-2700

9月の星空

星図：ステラナビゲータ11/(株)アストロアーツ

はくちょう座のしっぽとくちばしの星

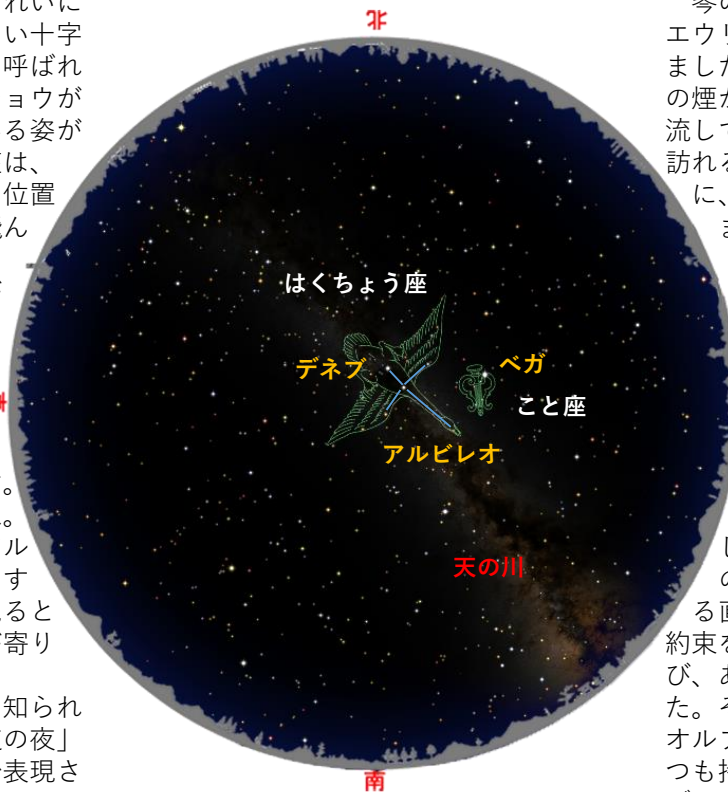
はくちょう座は、十字型にきれいに星が並んだ星座です。この美しい十字型は「北十字」という名前でも呼ばれています。星座の絵にはハクチョウが翼を大きく広げて空を飛んでいる姿が描かれています。はくちょう座は、ちょうど天の川に重なるように位置しているので、天の川の中を飛んでいるようにも見えます。

はくちょう座のしっぽの星がデネブです。88個ある星座には動物の星座がたくさんあるので、しっぽを意味する星は他にもいくつかあるのですが、一等星のしっぽの星はこのはくちょう座のデネブだけなのです。いうなればしっぽの王様ですね。

次はくちばしの位置にあるアルビレオ。肉眼では1つに見えますが実は二重星です。望遠鏡で見るとオレンジ色と青色の2つの星が寄り添っているように見えます。

最も色の美しい二重星として知られており、宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」では、トパーズとサファイアで表現されています。

9月15日21時の星図



こと座の神話～オルフェウスの琴～

琴の名手であったオルフェウスは、エウリディケという女性を花嫁に迎えました。しかし、婚礼の夜にたいまつが目にいったエウリディケは涙を流してしまいます。花嫁の涙は不幸が訪れる前兆であるとされており、実際に、エウリディケは数日後毒蛇にかまれて死んでしまいました。

悲しんだオルフェウスはエウリディケを連れ戻す決心をして死の国へ向かいました。そこで、死の国の王プルトンもオルフェウスの琴の音色に心を打たれ、「帰り着くまで後ろの妻を振り返ってはならない」という条件で、妻をこの世へつれ戻すことを許します。

しかし、オルフェウスは、道のりの途中、不安にかられ、地上に出る直前で振り返ってしまいました。約束を破ったためにエウリディケは再び、あの世の国に戻されてしまいました。その後、失意のうちに世を去ったオルフェウスを憐れに思い、せめていつも持っていた竖琴だけでも夜空に上げ、星座にしたということです。

プラネタリウムライブ

ラストラーダカンパニー
～星空の道化師～

日時：10月5日（土）

10:05～11:45

場所：5階 GINGA PORT401

料金：一席 1,200円

定員：140人（自由席）

※チケットは8月24日（土）

から1階総合受付で販売し、

完売した時点で終了します。

※館内での飲食、館内への生花の持ち込みはできません。



宇宙塾

彗星の故郷とその素顔に迫る ー多種多様な太陽系小天体への誘いー

今年の秋にアトラス・紫金山彗星が地球に最接近し、明るくなることが期待されています。こうした近年の彗星事情から、彗星観測・予報の難しさに加え、彗星が天文学にもたらす新たな知見についてお話しいたします。

日時：9月14日（土）18:20～20:00

場所：5階 プラネタリウム

定員：140人 料金：無料

その他：中学生以下は保護者同伴

講師：国立天文台天文情報センター

天文保時室長 布施哲治



©東京大学 木曾観測所（池谷・張彗星）

博物館主催 スターウォッチング

【博物館主催きらら号観望会】

日時：9月28日（土）19:30～21:00

場所：三滝公園

内容：土星を見よう



※申し込み不要、参加無料、天候不良時は中止。
※参加者が多い場合は受付を制限することがあります。
※天候不良等による実施判断は、開始時刻の3時間前に当館ホームページ及びFacebookで発信します。

編集後記

今年の夏は猛暑日が多く、体にこたえる日が多かったですが、朝晩は涼しい風が感じられるようになってきました。

9月17日は「中秋の名月」です。「中秋の名月」とは、旧暦の8月15日の月のことで、この日に月を眺め、収穫に感謝する風習が現在も残っています。

お月見団子を用意してゆっくりと月を愛でてみたいものです。

9月の月

3日 新月

11日 上弦

18日 満月

25日 下弦